SMB / CIFS の設定

System Manager Classic

NetApp
April 09, 2024

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/ontap-sm-classic/smb-config/index.html on April 09, 2024. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

SMB / CIFS の設定 1
SMB / CIFS の設定の概要 1
SMB / CIFS の設定ワークフロー 1
CIFS 対応 SVM を新規に作成 3
既存の SVM への SMB / CIFS アクセスを設定 9
CIFS 対応 SVM に CIFS ボリュームを追加 13

SMB / CIFS の設定

SMB / CIFS の設定の概要

ONTAP System Manager の従来のインターフェイス（ ONTAP 9.7 以前）を使用すると、新規または既存の Storage Virtual Machine （ SVM ）の新しいボリュームに対する SMB / CIFS アクセスを簡単に設定できます。

この手順は、ボリュームへのアクセスを設定する場合に使用します。

- すべての選択肢について検討するのではなく、ベストプラクティスに従う。
- データネットワークでデフォルトの IPspace 、デフォルトのブロードキャストドメイン、およびデフォルトのフェイルオーバーグループを使用する。

  データネットワークがフラット構成であれば、これらのデフォルトのオブジェクトを使用することで、リンク障害の発生時に LIF が確実に正しくフェイルオーバーされます。デフォルトのオブジェクトを使用しない場合は、を参照してください "ネットワーク管理マニュアル" LIF パスのフェイルオーバーを設定する方法については、を参照してください。

- 新しいボリュームを NTFS ファイル権限を使用して保護する。

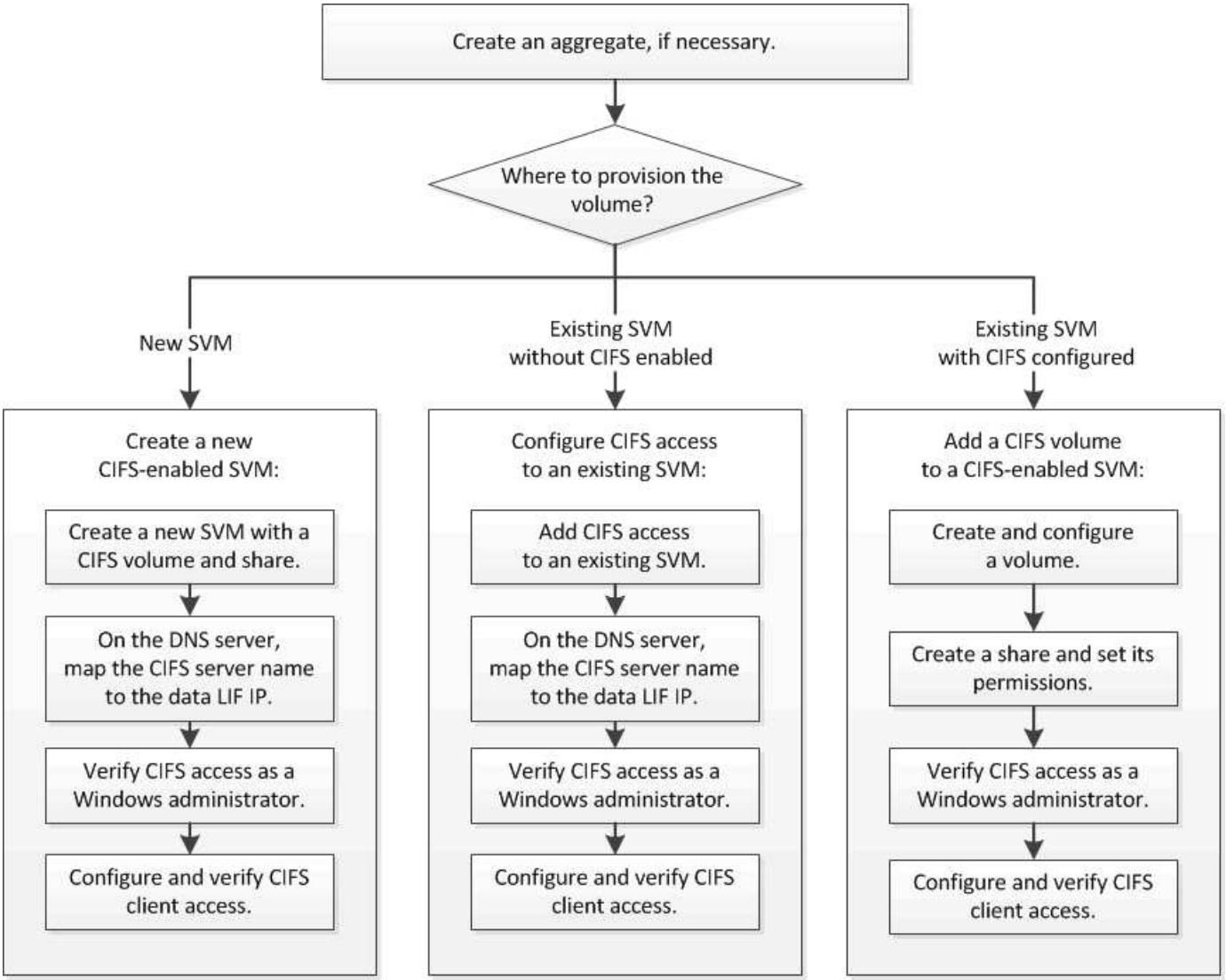
ONTAP の SMB プロトコル機能の範囲の詳細については、を参照してください "SMB リファレンスの概要"。

ONTAP でこれを行うその他の方法

実行するタスク	参照先
再設計された System Manager （ ONTAP 9.7 以降で使用可能）	"SMB を使用して Windows サーバ用の NAS ストレージをプロビジョニングする"
ONTAP のコマンドラインインターフェイス	"CLI を使用した SMB の設定の概要"

SMB / CIFS の設定ワークフロー

SMB / CIFS を設定するには、必要に応じてアグリゲートを作成してから、目的に応じたワークフローに従います。 CIFS 対応 SVM を新規に作成するか、既存の SVM への CIFS アクセスを設定するか、すでに CIFS アクセスの設定が完了している既存の SVM に CIFS ボリュームを追加するかによってワークフローが異なります。



アグリゲートを作成する

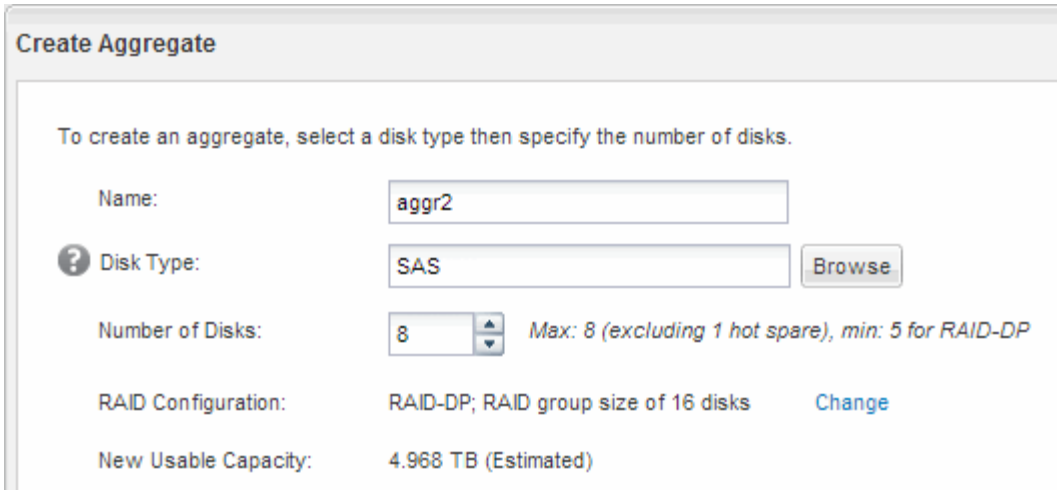
既存のアグリゲートを使用しない場合は、プロビジョニングするボリュームに物理ストレージを提供するアグリゲートを新規に作成します。

このタスクについて

新しいボリュームに既存のアグリゲートを使用する場合は、この手順をスキップできます。

手順

1. Web ブラウザに「 + https://IP-address-of-cluster-management-LIF+` 」という URL を入力し、クラスタ管理者のクレデンシャルを使用して System Manager にログインします。
2. [* Aggregate] ウィンドウに移動します。
3. [* 作成 .*] をクリックします
4. 画面の指示に従って、デフォルトの RAID-DP 構成を使用してアグリゲートを作成し、 * Create * をクリックします。



結果

指定した構成でアグリゲートが作成され、アグリゲートウィンドウのアグリゲートのリストに追加されます。

新しいボリュームをプロビジョニングする場所を決定します

新しい CIFS ボリュームを作成する前に、そのボリュームを既存の Storage Virtual Machine （ SVM ）に配置するかどうかを決め、既存の SVM に配置する場合はどのような設定が必要になるかについても確認しておく必要があります。これにより、ワークフローが決まります。

手順

- 新しい SVM にボリュームをプロビジョニングする場合は、 CIFS 対応 SVM を新規に作成します。

  "CIFS 対応 SVM の新規作成"

  既存の SVM で CIFS を有効にしていない場合は、この手順に従ってください。

- CIFS が有効になっているが設定はまだ完了していない既存の SVM にボリュームをプロビジョニングする場合は、既存の SVM に対する CIFS / SMB アクセスを設定します。

  "既存の SVM で CIFS / SMB アクセスを設定"

  手順を使用して SAN アクセス用の SVM を作成した場合は、この手順に従ってください。

- CIFS アクセスの設定が完了している既存の SVM にボリュームをプロビジョニングする場合は、 CIFS 対応 SVM に CIFS ボリュームを追加します。

  "CIFS 対応 SVM への CIFS ボリュームの追加"

CIFS 対応 SVM を新規に作成

CIFS 対応 SVM を新規にセットアップするには、新しい SVM を作成して CIFS ボリュームと共有を設定し、 DNS サーバでマッピングを追加し、 Windows 管理ホストからの

CIFS アクセスを確認します。その後、 CIFS クライアントアクセスを設定することができます。

CIFS ボリュームと共有を含む新しい SVM を作成

ウィザードを使用して、新しい Storage Virtual Machine （ SVM ）の作成から、 Domain Name System （ DNS ；ドメインネームシステム）の設定、データ論理インターフェイス（ LIF ）の作成、 CIFS サーバの設定、ボリュームの作成と共有までの一連の処理を実行することができます。

作業を開始する前に

- ネットワークを設定し、関連する物理ポートをネットワークに接続しておく必要があります。
- SVM で使用する次のネットワークコンポーネントを確認しておく必要があります。
  - データ論理インターフェイス（ LIF ）を作成するノードとそのノード上の特定のポート
  - データ LIF の IP アドレスをプロビジョニングするサブネット、または必要に応じてデータ LIF に割り当てる特定の IP アドレス
  - この SVM を追加する Active Directory （ AD ）ドメインと SVM を追加するために必要なクレデンシャル
- サブネットは、 Network Information Service （ NIS ）、 Lightweight Directory Access Protocol （ LDAP ）、 Active Directory （ AD ）、 DNS などのサービスに必要なすべての外部サーバへのルーティングが可能である必要があります。
- 外部ファイアウォールがある場合は、ネットワークサービスへのアクセスを許可するように適切に設定しておく必要があります。
- AD ドメインコントローラ、クライアント、および SVM の時刻の誤差が 5 分以内になるように同期しておく必要があります。

手順

1. SVMs ウィンドウに移動します。
2. [* 作成 .*] をクリックします
3. Storage Virtual Machine （ SVM ）のセットアップ * ダイアログボックスで、 SVM を作成します。

   a. SVM に一意の名前を指定します。

      完全修飾ドメイン名（ FQDN ）を使用するか、クラスタ内で名前が一意になるような命名規則に従って指定してください。

   b. すぐには設定しない場合でも、ライセンスがあり、 SVM で将来的に使用する可能性のあるプロトコルはすべて選択します。

      NFS アクセスが必要になった場合は、 CIFS クライアントと NFS クライアントが同じデータ LIF を共有できるように、「 * nfs * now 」を選択する必要があります。

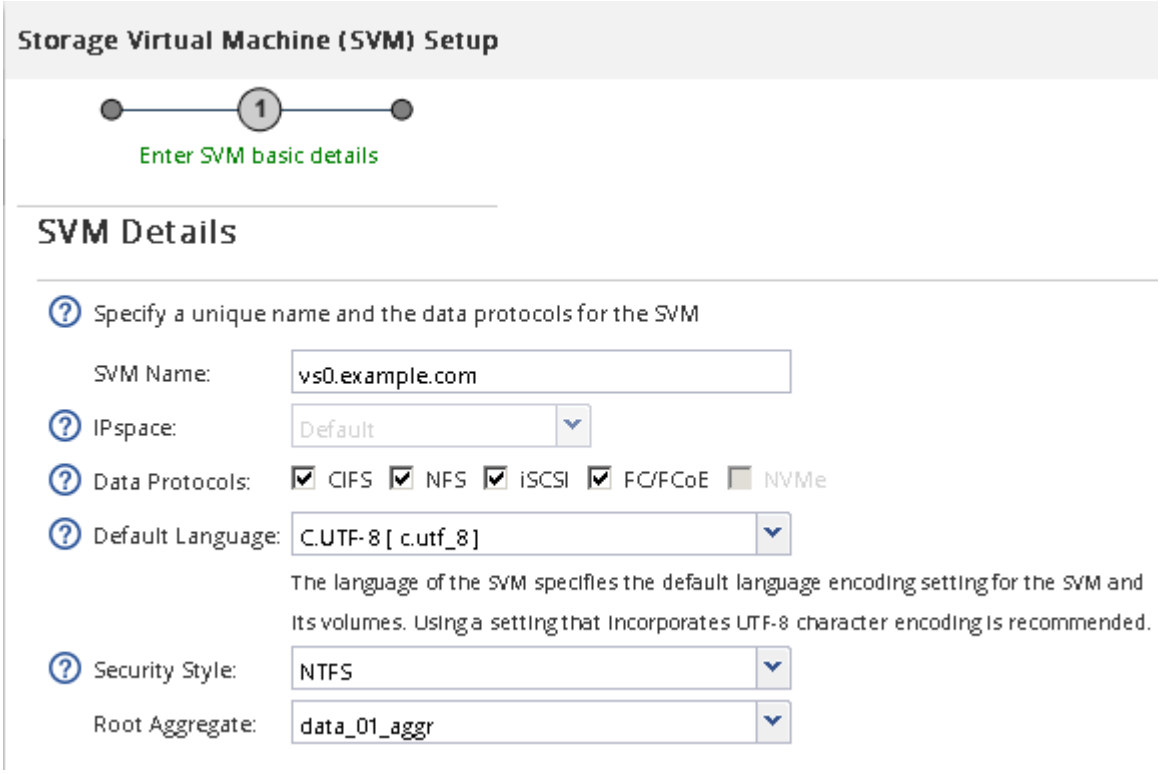
   c. 言語設定はデフォルトの C.UTF-8 のままにします。

NFS クライアントと SMB / CIFS クライアントの両方で国際文字の表示をサポートしている場合は、 ONTAP 9.5 以降で提供されている * UTF8MB4 * 言語コードの使用を検討してください。

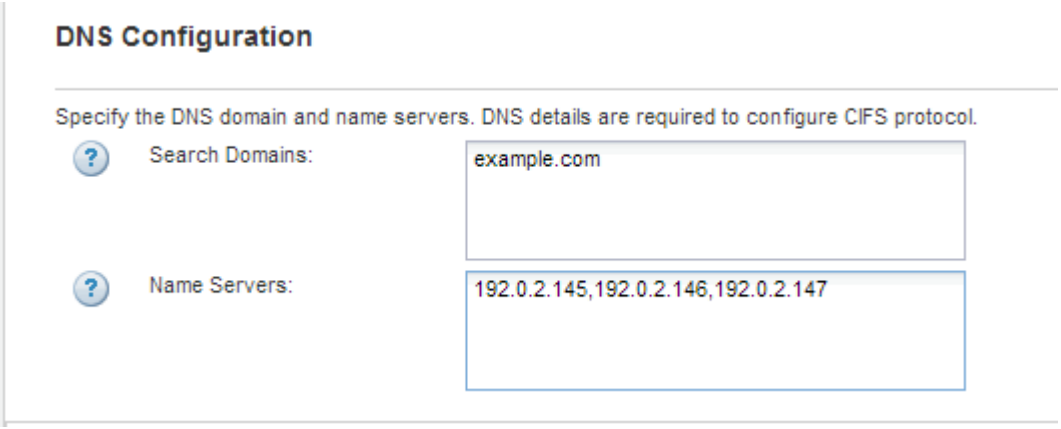
あとで作成するボリュームでもこの言語が継承されます。ボリュームの言語を変更することはできません。

d. オプション：SVMルートボリュームを格納するルートアグリゲートを選択します。

選択したルートボリュームのアグリゲートがデータボリュームの場所に対応していない。データボリュームのアグリゲートは、あとでストレージをプロビジョニングするときに自動的に選択されます。



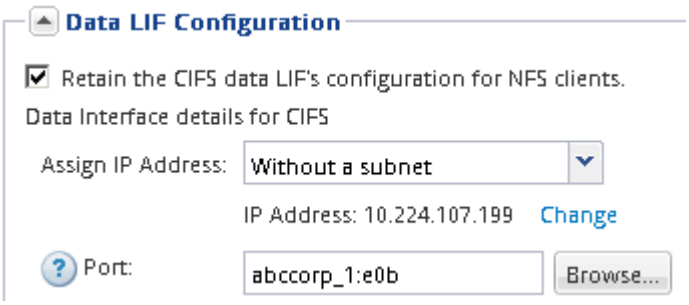
e. オプション：* DNS Configuration *領域で、このSVMに使用するデフォルトのDNS検索ドメインとネームサーバがあることを確認します。



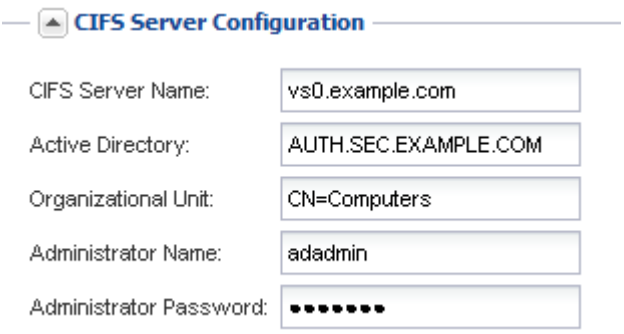
f. [Submit & Continue] をクリックします。

SVM が作成されます。プロトコルの設定はまだ完了していません。

4. Configure CIFS/NFS protocol * ページの * Data LIF Configuration * セクションで、クライアントがデータへのアクセスに使用する LIF の詳細を指定します。
   a. LIF に IP アドレスを割り当てます。指定したサブネットから自動で割り当てるか、手動で入力して割り当てます。
   b. 「 * Browse 」をクリックして、 LIF に関連付けるノードとポートを選択します。



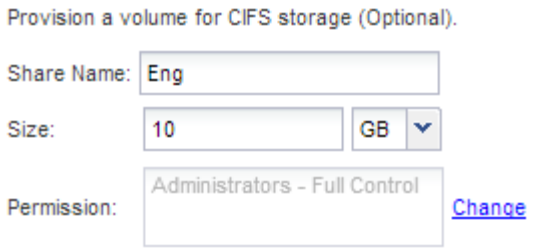
5. CIFS Server Configuration * セクションで CIFS サーバを定義し、 AD ドメインにアクセスするように設定します。
   a. CIFS サーバに AD ドメイン内で一意の名前を指定します。
   b. CIFS サーバを追加できる AD ドメインの FQDN を指定します。
   c. AD ドメイン内の CN=Computers 以外の組織単位（ OU ）を関連付ける場合は、その OU を入力します。
   d. OU に CIFS サーバを追加するための十分な権限がある管理用アカウントの名前とパスワードを指定します。
   e. この SVM 上のすべての共有に対する不正アクセスを防止するには、 SMB 3.0 を使用してデータを暗号化するオプションを選択します。



6. CIFS / SMB アクセス用にボリュームを作成し、共有をプロビジョニングします。
   a. CIFS / SMB クライアントからボリュームにアクセスするときに使用する共有の名前を指定します。

      入力した共有の名前はボリューム名としても使用されます。

   b. ボリュームのサイズを指定します。



ボリュームのアグリゲートを指定する必要はありません。ボリュームは利用可能なスペースが最も多いアグリゲートに自動的に配置されます。

7. オプション：共有ACLを変更して、共有へのアクセスを制限します。
   a. [*permission] フィールドで、 [*Change] をクリックします。
   b. Everyone グループを選択し、 * Remove * をクリックします。
   c. オプション：* Add *をクリックし、SVMを含むWindows Active Directoryドメインで定義されている管理者グループの名前を入力します。
   d. 新しい管理者グループを選択し、 * Full Control * を選択します。
   e. [保存して閉じる] をクリックします。
8. [Submit & Continue] をクリックします。

   次のオブジェクトが作成されます。

   - SVM のあとにという名前のデータ LIF に「 _cifs_lif1 」というサフィックスを付加
   - AD ドメインに属する CIFS サーバ
   - 使用可能なスペースが最も多いアグリゲートに配置されるボリューム。共有名に一致する名前で、末尾には「 _cifs_volume 」というサフィックスを付けます。
   - ボリューム上の共有
9. 表示されている他のすべてのプロトコル設定ページについては、 * Skip * をクリックして後でプロトコルを設定します。
10. * SVM 管理 * ページが表示されたら、この SVM に別の管理者を設定するか、設定を延期します。
    - [* Skip] をクリックし、必要に応じて後で管理者を設定します。
    - 必要な情報を入力して、「 * Submit & Continue * 」をクリックします。
11. 「 * 概要 * 」ページを確認し、後で必要となる情報を記録して、「 * OK 」をクリックします。

    DNS 管理者は、 CIFS サーバの名前とデータ LIF の IP アドレスを把握しておく必要があります。Windows クライアントでは、 CIFS サーバと共有の名前が必要になります。

結果

新しい SVM が作成され、共有するように設定された新しいボリュームを含む CIFS サーバが作成されます。

DNS サーバでの SMB サーバのマッピング

Windows ユーザがドライブを SMB サーバ名にマッピングできるように、サイトの DNS

サーバに、 SMB サーバ名および NetBIOS エイリアスをデータ LIF の IP アドレスにマッピングしたエントリを設定する必要があります。

作業を開始する前に

サイトの DNS サーバに対する管理アクセス権が必要です。管理アクセス権がない場合は、 DNS 管理者にこのタスクの実行を依頼する必要があります。

このタスクについて

SMB サーバ名に NetBIOS エイリアスを使用する場合は、各エイリアスに DNS サーバのエントリポイントを作成することを推奨します。

手順

1. DNS サーバにログインします。
2. フォワードルックアップ（ A - アドレスレコード）とリバースルックアップ（ PTR - ポインタレコード）のエントリを作成して、 SMB サーバ名をデータ LIF の IP アドレスにマッピングします。
3. NetBIOS エイリアスを使用する場合は、エイリアスの正規名（ CNAME リソースレコード）のルックアップエントリを作成して、各エイリアスを SMB サーバのデータ LIF の IP アドレスにマッピングします。

結果

ネットワーク全体にマッピングが反映されると、 Windows ユーザがドライブを SMB サーバ名またはその NetBIOS エイリアスにマッピングできるようになります。

SMB クライアントアクセスを確認

共有にアクセスしてデータを書き込むことで、 SMB が正しく設定されていることを確認する必要があります。SMB サーバ名と NetBIOS エイリアスを使用してアクセスをテストします。

手順

1. Windows クライアントにログインします。
2. SMB サーバ名を使用してアクセスをテストします。

   a. エクスプローラで、「 \ ルール」 \ 「 SMB_Server_Name \ Share_Name 」の形式で共有にドライブをマッピングします

      正常にマッピングされない場合は、 DNS マッピングがネットワーク全体にまだ反映されていない可能性があります。しばらく待ってから、再度 SMB サーバ名を使用してアクセスをテストしてください。

      SMB サーバの名前が vs1.example.com で、共有の名前が SHARE1 の場合は、「 \ター シャリ \vs0.example.com\SHARE1` 」と入力します

   b. 新しく作成したドライブで、テストファイルを作成し、作成できたら削除します。

   SMB サーバ名を使用した共有への書き込みアクセスが可能であることを確認できました。

3. NetBIOS エイリアスについて手順 2 を繰り返します。

CIFS クライアントアクセスを設定して確認

準備ができたら、エクスプローラで NTFS ファイル権限を設定し、 System Manager で共有 ACL を変更して、選択したクライアントに共有へのアクセスを許可することができます。設定が完了したら、該当するユーザまたはグループがボリュームにアクセスできることを確認してください。

手順

1. 共有へのアクセスを許可するクライアントとユーザまたはグループを決定します。
2. Windows クライアントで、管理者ロールを使用して、ファイルおよびフォルダに対する権限をユーザまたはグループに付与します。
   a. NTFS 権限を管理するための十分な管理権限がある管理者として Windows クライアントにログインします。
   b. エクスプローラでドライブを右クリックし、 * プロパティ * を選択します。
   c. [* セキュリティ *] タブを選択し、必要に応じてグループおよびユーザーのセキュリティ設定を調整します。
3. System Manager で、共有 ACL を変更して、 Windows のユーザまたはグループに共有へのアクセスを許可します。
   a. [* 共有] ウィンドウに移動します。
   b. 共有を選択し、 * 編集 * をクリックします。
   c. [* アクセス権 *] タブを選択し、ユーザーまたはグループに共有へのアクセス権を付与します。
4. Windows クライアントで、共有およびファイルへのアクセスを許可したいずれかのユーザとしてログインし、共有にアクセスしてファイルを作成できることを確認します。

既存の SVM への SMB / CIFS アクセスを設定

既存の SVM に対する SMB / CIFS クライアントのアクセスを追加するには、 SVM に CIFS の設定を追加し、 DNS サーバでマッピングを追加し、 Windows 管理ホストからの CIFS アクセスを確認します。その後、 CIFS クライアントアクセスを設定することができます。

既存の SVM に CIFS アクセスを追加

既存の SVM への CIFS / SMB アクセスを追加するには、データ LIF を作成し、 CIFS サーバを設定し、ボリュームをプロビジョニングして共有し、共有権限を設定します。

作業を開始する前に

- SVM で使用する次のネットワークコンポーネントを確認しておく必要があります。
  - データ論理インターフェイス（ LIF ）を作成するノードとそのノード上の特定のポート
  - データ LIF の IP アドレスをプロビジョニングするサブネット、または必要に応じてデータ LIF に割り当てる特定の IP アドレス
  - この SVM を追加する Active Directory （ AD ）ドメインと SVM を追加するために必要なクレデンシ

ャル

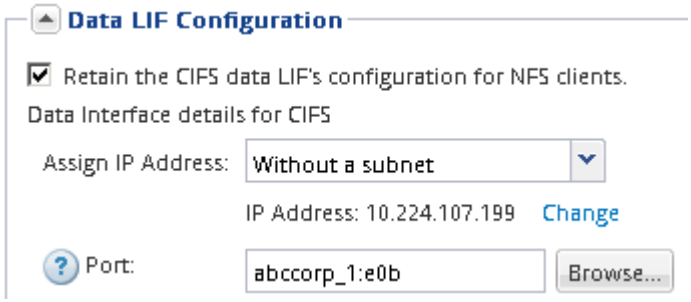
- 外部ファイアウォールがある場合は、ネットワークサービスへのアクセスを許可するように適切に設定しておく必要があります。
- SVM で CIFS プロトコルが許可されている必要があります。

  これは、手順のあとに SAN プロトコルを設定する SVM を作成していない場合に該当します。

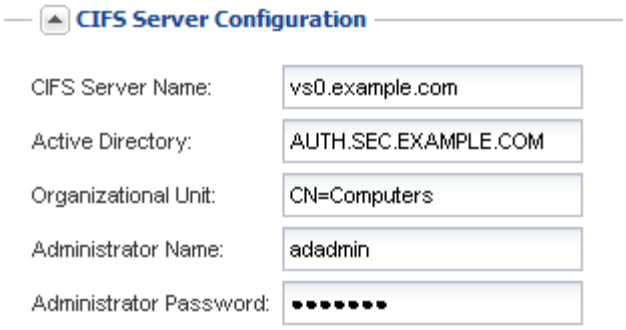
手順

1. SVM のプロトコルを設定するための領域に移動します。
   a. 設定する SVM を選択します。
   b. [* 詳細 * （ * Details * ）] ペインで、 [* プロトコル * （ * Protocols ）] の横の [* CIFS*] をクリックします。

2. CIFS プロトコルの設定 * ダイアログボックスの * データ LIF の設定 * セクションで、 SVM 用のデータ LIF を作成します。
   a. LIF に IP アドレスを割り当てます。指定したサブネットから自動で割り当てるか、手動で入力して割り当てます。
   b. 「 * Browse 」をクリックして、 LIF に関連付けるノードとポートを選択します。

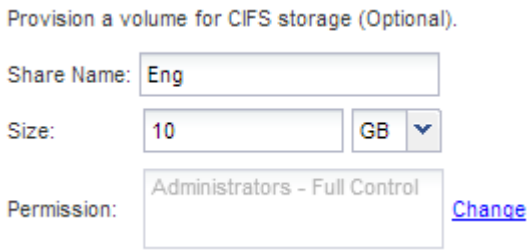
3. CIFS Server Configuration * セクションで CIFS サーバを定義し、 AD ドメインにアクセスするように設定します。
   a. CIFS サーバに AD ドメイン内で一意の名前を指定します。
   b. CIFS サーバを追加できる AD ドメインの FQDN を指定します。
   c. AD ドメイン内の CN=Computers 以外の組織単位（ OU ）を関連付ける場合は、その OU を入力します。
   d. OU に CIFS サーバを追加するための十分な権限がある管理用アカウントの名前とパスワードを指定します。
   e. この SVM 上のすべての共有に対する不正アクセスを防止するには、 SMB 3.0 を使用してデータを暗号化するオプションを選択します。



4. CIFS / SMB アクセス用にボリュームを作成し、共有をプロビジョニングします。
   a. CIFS / SMB クライアントからボリュームにアクセスするときに使用する共有の名前を指定します。

      入力した共有の名前はボリューム名としても使用されます。

   b. ボリュームのサイズを指定します。



   ボリュームのアグリゲートを指定する必要はありません。ボリュームは利用可能なスペースが最も多いアグリゲートに自動的に配置されます。

5. オプション：共有ACLを変更して、共有へのアクセスを制限します。
   a. [*permission] フィールドで、 [*Change] をクリックします。
   b. Everyone グループを選択し、 * Remove * をクリックします。
   c. オプション：* Add *をクリックし、SVMを含むWindows Active Directoryドメインで定義されている管理者グループの名前を入力します。
   d. 新しい管理者グループを選択し、 * Full Control * を選択します。
   e. [保存して閉じる] をクリックします。
6. [送信して閉じる *] をクリックし、 [OK] をクリックします。

DNS サーバでの SMB サーバのマッピング

Windows ユーザがドライブを SMB サーバ名にマッピングできるように、サイトの DNS サーバに、 SMB サーバ名および NetBIOS エイリアスをデータ LIF の IP アドレスにマッピングしたエントリを設定する必要があります。

作業を開始する前に

サイトの DNS サーバに対する管理アクセス権が必要です。管理アクセス権がない場合は、 DNS 管理者にこのタスクの実行を依頼する必要があります。

このタスクについて

SMB サーバ名に NetBIOS エイリアスを使用する場合は、各エイリアスに DNS サーバのエントリポイントを作成することを推奨します。

手順

1. DNS サーバにログインします。
2. フォワードルックアップ（ A - アドレスレコード）とリバースルックアップ（ PTR - ポインタレコード）のエントリを作成して、 SMB サーバ名をデータ LIF の IP アドレスにマッピングします。
3. NetBIOS エイリアスを使用する場合は、エイリアスの正規名（ CNAME リソースレコード）のルックアップエントリを作成して、各エイリアスを SMB サーバのデータ LIF の IP アドレスにマッピングします。

結果

ネットワーク全体にマッピングが反映されると、 Windows ユーザがドライブを SMB サーバ名またはその NetBIOS エイリアスにマッピングできるようになります。

SMB クライアントアクセスを確認

共有にアクセスしてデータを書き込むことで、 SMB が正しく設定されていることを確認する必要があります。SMB サーバ名と NetBIOS エイリアスを使用してアクセスをテストします。

手順

1. Windows クライアントにログインします。
2. SMB サーバ名を使用してアクセスをテストします。

   a. エクスプローラで、「 \ ルール」 \ 「 SMB_Server_Name \ Share_Name 」の形式で共有にドライブをマッピングします

      正常にマッピングされない場合は、 DNS マッピングがネットワーク全体にまだ反映されていない可能性があります。しばらく待ってから、再度 SMB サーバ名を使用してアクセスをテストしてください。

      SMB サーバの名前が vs1.example.com で、共有の名前が SHARE1 の場合は、「 \ター シャリ \vs0.example.com\SHARE1` 」と入力します

   b. 新しく作成したドライブで、テストファイルを作成し、作成できたら削除します。

   SMB サーバ名を使用した共有への書き込みアクセスが可能であることを確認できました。

3. NetBIOS エイリアスについて手順 2 を繰り返します。

CIFS クライアントアクセスを設定して確認

準備ができたら、エクスプローラで NTFS ファイル権限を設定し、 System Manager で共有 ACL を変更して、選択したクライアントに共有へのアクセスを許可することができます。設定が完了したら、該当するユーザまたはグループがボリュームにアクセスできることを確認してください。

手順

1. 共有へのアクセスを許可するクライアントとユーザまたはグループを決定します。
2. Windows クライアントで、管理者ロールを使用して、ファイルおよびフォルダに対する権限をユーザまたはグループに付与します。
   a. NTFS 権限を管理するための十分な管理権限がある管理者として Windows クライアントにログインします。
   b. エクスプローラでドライブを右クリックし、 * プロパティ * を選択します。
   c. [* セキュリティ *] タブを選択し、必要に応じてグループおよびユーザーのセキュリティ設定を調整します。
3. System Manager で、共有 ACL を変更して、 Windows のユーザまたはグループに共有へのアクセスを許可します。
   a. [* 共有] ウィンドウに移動します。
   b. 共有を選択し、 * 編集 * をクリックします。
   c. [* アクセス権 *] タブを選択し、ユーザーまたはグループに共有へのアクセス権を付与します。
4. Windows クライアントで、共有およびファイルへのアクセスを許可したいずれかのユーザとしてログインし、共有にアクセスしてファイルを作成できることを確認します。

CIFS 対応 SVM に CIFS ボリュームを追加

CIFS 対応 SVM に CIFS ボリュームを追加するには、ボリュームを作成して設定し、共有を作成して権限を設定し、 Windows 管理ホストからのアクセスを確認します。その後、 CIFS クライアントアクセスを設定することができます。

作業を開始する前に

SVM で CIFS の設定が完了している必要があります。

ボリュームを作成して設定

データを格納する FlexVol ボリュームを作成する必要があります。ボリュームのセキュリティ形式は、必要に応じて変更することができます。デフォルトでは、ルートボリュームのセキュリティ形式が継承されます。また、ボリュームのネームスペース内の場所も必要に応じて変更できます。デフォルトでは、 Storage Virtual Machine （ SVM ）のルートボリュームに配置されます。

手順

1. [* Volumes （ボリューム）] ウィンドウに移動します。
2. [* 作成 **>** FlexVol の作成 *] をクリックします。

   Create Volume （ボリュームの作成）ダイアログボックスが表示されます。

3. 日付とタイムスタンプで終わるデフォルト名を変更する場合は、「 vol1 」などの新しい名前を指定します。
4. ボリュームのアグリゲートを選択します。

5. ボリュームのサイズを指定します。
6. [作成（ Create ）] をクリックします。

   System Manager で新しいボリュームを作成すると、デフォルトでは、ボリューム名をジャンクション名として使用してルートボリュームにマウントされます。CIFS 共有を設定するときは、ジャンクションパスとジャンクション名を使用します。

7. オプション：ボリュームをSVMのルート以外の場所に配置する場合は、既存のネームスペース内で新しいボリュームの場所を変更します。

   a. [* 名前空間 *] ウィンドウに移動します。
   b. ドロップダウンメニューから * SVM * を選択します。
   c. [マウント] をクリックします。
   d. マウントボリューム * ダイアログボックスで、ボリューム、そのジャンクションパスの名前、およびボリュームをマウントするジャンクションパスを指定します。
   e. 新しいジャンクションパスを「 * Namespace * 」ウィンドウで確認します。

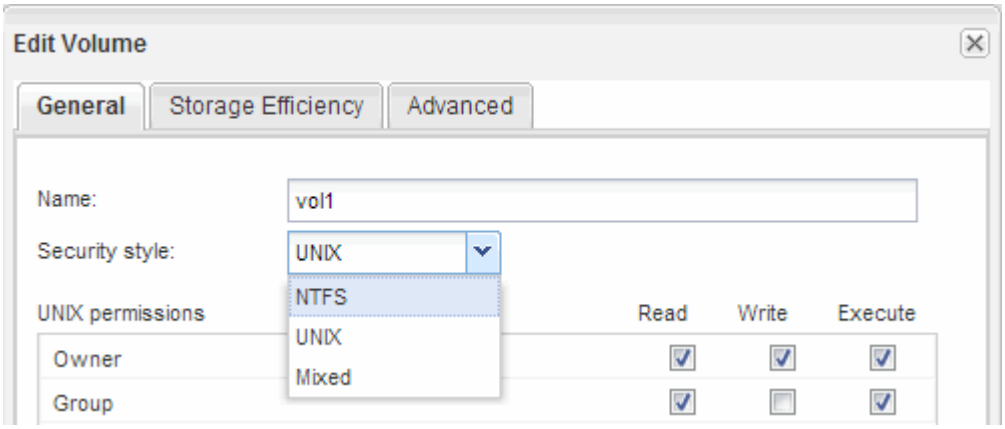
   特定のボリュームを「 data 」というメインボリュームにまとめる場合、新しいボリューム「 vol1 」をルートボリュームから「 data 」ボリュームに移動できます。

8. ボリュームのセキュリティ形式を確認し、必要に応じて変更します。

   a. [* Volume* （ボリューム * ）] ウィンドウで、作成したボリュームを選択し、 [* Edit* （編集）] をクリックします。

      ボリュームの編集ダイアログボックスが表示され、ボリュームの現在のセキュリティ形式が表示されます。セキュリティ形式は、 SVM ルートボリュームから継承されます。

   b. セキュリティ形式が NTFS であることを確認します。



共有を作成して権限を設定

ボリュームへのアクセスを Windows ユーザに許可する前に、ボリュームに CIFS 共有を作成し、共有のアクセス制御リスト（ ACL ）を変更してアクセスを制限する必要があります。

このタスクについて

テストを目的として、アクセスを許可するのは管理者だけにしてください。その後、ボリュームにアクセスできることを確認したあとで、他のクライアントにもアクセスを許可できます。

手順

1. [* 共有] ウィンドウに移動します。
2. SMB クライアントがボリュームにアクセスできるように共有を作成します。
   a. [共有の作成 *] をクリックします。
   b. [共有の作成 *] ダイアログボックスで、 [* 参照] をクリックし、名前空間階層を展開して、前に作成したボリュームを選択します。
   c. オプション：共有名をボリューム名と異なる名前にする場合は、共有名を変更します。
   d. [作成（ Create ）] をクリックします。

   デフォルトの ACL で共有が作成され、 Everyone グループにフルコントロール権限が設定されます。
3. オプション：共有ACLを変更して、共有へのアクセスを制限します。
   a. 共有を選択し、 * 編集 * をクリックします。
   b. [* アクセス許可] タブで、 [* 全員 *] グループを選択し、 [* 削除] をクリックします。
   c. [* 追加] をクリックし、 SVM を含む Windows Active Directory ドメインで定義されている管理者グループの名前を入力します。
   d. 新しい管理者グループを選択した状態で、すべての権限を選択します。
   e. [保存して閉じる] をクリックします。

   更新された共有アクセス権限は、共有アクセス制御ペインに表示されます。

次に何をするか

Windows 管理者権限でアクセスを確認します。

SMB クライアントアクセスを確認

共有にアクセスしてデータを書き込むことで、 SMB が正しく設定されていることを確認する必要があります。SMB サーバ名と NetBIOS エイリアスを使用してアクセスをテストします。

手順

1. Windows クライアントにログインします。
2. SMB サーバ名を使用してアクセスをテストします。
   a. エクスプローラで、「 \ ルール」 \ 「 SMB_Server_Name \ Share_Name 」の形式で共有にドライブをマッピングします

      正常にマッピングされない場合は、 DNS マッピングがネットワーク全体にまだ反映されていない可能性があります。しばらく待ってから、再度 SMB サーバ名を使用してアクセスをテストしてください。

SMB サーバの名前が vs1.example.com で、共有の名前が SHARE1 の場合は、「 \ター シャリ \vs0.example.com\SHARE1` 」と入力します

b. 新しく作成したドライブで、テストファイルを作成し、作成できたら削除します。

SMB サーバ名を使用した共有への書き込みアクセスが可能であることを確認できました。

3. NetBIOS エイリアスについて手順 2 を繰り返します。

CIFS クライアントアクセスを設定して確認

準備ができたら、エクスプローラで NTFS ファイル権限を設定し、 System Manager で共有 ACL を変更して、選択したクライアントに共有へのアクセスを許可することができます。設定が完了したら、該当するユーザまたはグループがボリュームにアクセスできることを確認してください。

手順

1. 共有へのアクセスを許可するクライアントとユーザまたはグループを決定します。
2. Windows クライアントで、管理者ロールを使用して、ファイルおよびフォルダに対する権限をユーザまたはグループに付与します。
   a. NTFS 権限を管理するための十分な管理権限がある管理者として Windows クライアントにログインします。
   b. エクスプローラでドライブを右クリックし、 * プロパティ * を選択します。
   c. [* セキュリティ *] タブを選択し、必要に応じてグループおよびユーザーのセキュリティ設定を調整します。
3. System Manager で、共有 ACL を変更して、 Windows のユーザまたはグループに共有へのアクセスを許可します。
   a. [* 共有] ウィンドウに移動します。
   b. 共有を選択し、 * 編集 * をクリックします。
   c. [* アクセス権 *] タブを選択し、ユーザーまたはグループに共有へのアクセス権を付与します。
4. Windows クライアントで、共有およびファイルへのアクセスを許可したいずれかのユーザとしてログインし、共有にアクセスしてファイルを作成できることを確認します。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。